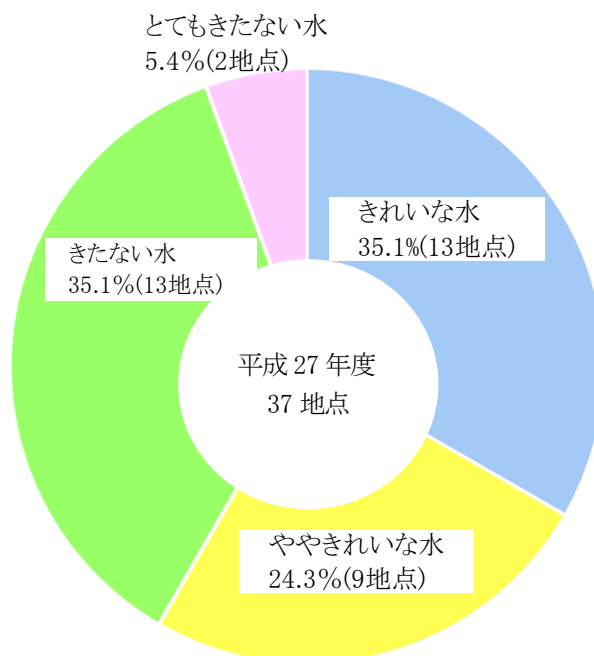


2. 調査結果

(1) 水質階級別調査地点数の割合

水質階級別調査地点数は、図 1 に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は 13 地点(35.1%)、“ややきれいな水”と判定された地点は 9 地点(24.3%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は 13 地点(35.1%)、“とてもきたない水”と判定されたのは 2 地点(5.4%)であった。



<図1>水質階級別調査地点数の割合

(2) 前年度に対する水質階級の比較

平成 27 年度の調査地点 37 地点のうち 24 地点が平成 26 年度と同じ地点での調査であった。これらの 24 地点の水質階級を比較すると、同じであったところが 13 地点、良くなったところが 6 地点、悪くなったところが 5 地点であった。(表 2)

<表2> 前年度に対する水質階級の比較(前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度より 良くなった	前年度と 変わらない	前年度より 悪くなった	全地点数
調査地点数	6	13	5	24
割合 (%)	25.0	54.2	20.8	100

(3) 水生生物調査結果一覧

水生生物調査結果一覧を表3、調査地点における水質階級を図 2 に示す。

(4) 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度及び最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表 4 のとおりである。

平成 27 年度に最も多くの地点で出現した指標生物は、シマイシビルであった。

＜表4＞ 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物		指標生物(○+●)		出現割合(%)	優占種(●)	
			頻度(回)	割合(%)		頻度(回)	割合(%)
Ⅰ きれいな水	1	アミカ類	0	0.0	27.1	0	0.0
	2	ナミウズムシ	12	4.5		2	2.8
	3	カワゲラ類	8	3.0		1	1.4
	4	サワガニ	8	3.0		3	4.2
	5	ナガレトビケラ類	10	3.8		2	2.8
	6	ヒラタカゲロウ類	11	4.1		7	9.9
	7	ブユ類	2	0.8		0	0.0
	8	ヘビトンボ	4	1.5		1	1.4
	9	ヤマトビケラ類	7	2.6		2	2.8
	10	ヨコエビ類	10	3.8		3	4.2
Ⅱ ややきれいな水	11	イシマキガイ ※	8	3.0	30.1	2	2.8
	12	オオシマトビケラ	10	3.8		4	5.6
	13	カワニナ類	17	6.4		5	7.0
	14	ゲンジボタル	1	0.4		0	0.0
	15	コオニヤンマ	8	3.0		0	0.0
	16	コガタシマトビケラ類	7	2.6		2	2.8
	17	ヒラタドロムシ類	18	6.8		7	9.9
	18	ヤマトシジミ ※	11	4.1		2	2.8
Ⅲ きたない水	19	イソコツブムシ類 ※	2	0.8	29.3	0	0.0
	20	タニシ類	18	6.8		5	7.0
	21	ニホンドロソコエビ ※	6	2.3		0	0.0
	22	シマイシビル	26	9.8		9	12.7
	23	ミズカマキリ	13	4.9		3	4.2
	24	ミズムシ	13	4.9		7	9.9
Ⅳ とてもきたない水	25	アメリカザリガニ	8	3.0	13.5	1	1.4
	26	エラミズ	10	3.8		2	2.8
	27	サカマキガイ	7	2.6		0	0.0
	28	ユスリカ類	10	3.8		1	1.4
	29	チョウバエ類	1	0.4		0	0.0
合計			266	100	100	71	100

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいいきの生物

(注) 割合については四捨五入のため、合計が 100%にならないことがある。